

前年度の改善取り組み結果及び次年度改善策の方針

肯定的な回答が多かった項目

児童

項目	とても思う 思うの合計
先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	97.5%
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	96.1%
先生に注意されたことは、理解できる。	96.1%

保護者

項目	とても思う 思うの合計
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	91.1%
本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	90.7%
学校行事は、子どもにとって楽しい。	89%

○本校では、教員に対して必ずその時間のめあてを明確にし、授業計画を立てたり、黒板に記したりするように指導をしている。子どもたちがその時間に何を学んでいるのかを確認しながら、自分で考えたり、友達と話し合ったり主体的に学習を進めていく活動を通して、せたがや11+に位置付けられている探究的な活動や授業の実践をこれからも行っていく。

○「先生に注意されたことは、理解できる。」という項目について、思春期の入り口にいる高学年の子どもたちが96.1%も「とても思う、思う」と回答したことについて、子どもたちと教職員との信頼関係がしっかりと結ばれているということが明らかとなり、とても喜ばしいことだと感じる。これからも、子どもたちを指導する際に、子どもたちの話を良く聞き、理解を得ながら諭す指導を推進していく。

○本校では、コロナ禍での教育活動の中で、全校朝会や集会等全校が集まる行事はすべて放送での配信とし集合することはなかった。しかし、避難訓練だけは、全校の子どもたちの安全を守ることを重要視し、密にならないように配慮しながら、全校で校庭にて行った。この取組が保護者の方々に受け入れられたと考える。また、PTAが広報誌で水害や地震の際の避難の仕方や保護者や地域の方々の声を広報誌にまとめ、保護者に発信して下さったことが、安全教育の評価の高さに結びついたものと考えている。これからも、保護者や地域の方々と協力しながら、安全教育を推進していく。

○コロナ禍ということもあり、保護者や地域の方々になかなか学校に来ていただくことが難しかった。しかし、その中でも喜多見小学校の教育活動や子どもたちの頑張りを知ってもらおうと、学校公開や学習発表会でYoutube配信をしたり、ホームページで子どもたちの様子を配信したりした。これからも、様々なツールを活用し、子どもたちの活躍する姿を発信していく。

否定的回答が多かった項目

児童

項目	あまり思わない 思わないの合計
私は、塾で学習している。	46.5%
私は、草花や野菜を育てるのが楽しい。	38.7%
学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。	33.9%

保護者

項目	あまり思わない 思わないの合計
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	39.2%
私は、今年度の学校重点目標を理解している。	36.6%
私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	36.4%

○本校は、習い事をしている子どもが区内の他小中学校に比べて少なく、通塾率も低い。また、保護者の意見としても、子どもたちが家庭で自主学習をあまりしていないということだった。今回のアンケートでこのことが明らかになったことを受けて、家庭学習の支援を強化していく。宿題を家庭で行うことのできない子どもに関しては、休み時間や放課後にできる限り担任がフォローアップを行う。また、学校支援コーディネーターと連携し、新型コロナウイルス感染症等が収束したら、放課後教室を開設し学力が心配な子どもたちの学力の基礎基本固めを行っていく。さらに、AI教材 Qubena を活用し、「個別最適化された学び」を家庭学習でも推進していく。

○子どもたちの回答で、「私は、草花や野菜を育てるのが楽しい。」という項目であまり思わない、思わないという合計が昨年度に引き続き高かった。「労作」は本校の特色の一つである。計画的に労作教育を行い、草花を育てる喜び、収穫する喜びが味わえるようにしていく。

○「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」という項目についての子どもの否定的な意見が多くなってしまった背景には、例年行っている小中でのあいさつ運動をコロナ禍で行うことができなかった期間が長く続いてしまったことや、部活体験や授業体験が6年生に偏り、5年生の体験が乏しかったことが考えられる。新型コロナウイルス等感染症の感染拡大が治まれば、例年通りあいさつ運動や、中学校の生徒会と本校の企画会の交流を以前よりも更に活発に推進していく。また、6年生のみならず、5年生を始め他の学年も中学校との交流を計画し、喜多見中学校との絆を深めていく。

○今回の関係者評価で今年度の学校重点目標を理解していない保護者が多数いたことが明らかとなった。年度当初の保護者会で、校長が保護者に対し学校重点目標について説明をしているが、それだけでは理解をしていただけない。学校重点目標について周知する機会を増やし、学校、保護者、地域が一つの目標に向かっていけるように教育活動について発信していく。

